

クマとのトラブルを防ぐために

～人とクマ※1との共存のために～

クマは普段は山の中で人を避けて生活していますが、人里に降りてくることがあります。突然出会ってしまうと、クマも驚いて自分を守るために攻撃してくることがあり、危険です。

クマがどのような動物で、どのような生活を送っているかを知ることが、クマとのトラブルを避けるための第1歩に繋がります。

※1 群馬県に生息するのは、ツキノワグマです。

STEP 1 クマを知る

1 ツキノワグマの生態や特徴

体の大きさ

- オス** 体長 110 ～ 140 センチメートル
体重 50 ～ 100 キログラム
- メス** 体長 80 ～ 120 センチメートル
体重 30 ～ 60 キログラム

冬眠に入る前には、よく食べ体重が増加するため、季節により体重の増減があります。

運動能力

- 速く走ることができる
(時速 50km 以上)
- 木登り、泳ぎも得意

感覚能力

- 嗅覚:良い(犬よりも良い)
- 聴覚:良い(人間よりも良い)
- 視覚:良い(人間並み(色以外))

性格

- 学習能力が高い
 - 食べ物への執着が強い
- 食べ物の味を覚えると、同じ場所に繰り返し出没することもあります

警戒心が強い

クマは本来臆病で、突然出会うと、クマも驚いて襲ってくる場合があります。また、子グマを連れた親グマは警戒心が高いため、近づくのは危険です。

行動範囲

地域、雌雄、年齢等で行動範囲は変わりますが、一般的にはオスの方が広い傾向にあります。

オス 40 ～ 80 平方キロメートル

メス 15 ～ 30 平方キロメートル

最小でも東京ドーム320個分(15kmの場合)

繁殖期や食べ物が少なくなる夏、食べ物が少ない年には、食べ物を求めて、行動範囲が広がる傾向があります。

2 クマの食べ物

クマは、森の植物の生育状況や、季節によって食べる物を柔軟に変化させます。雑食性で、基本的な食べ物は植物中心ですが、昆虫類も食べます。動物を襲うことはまれですが、わなにかかったシカの死体などを食べる場合があります。

春 山菜など植物の新芽・花

春の山菜採りは、クマも人も夢中になることがあるので、特に注意が必要です。

夏 植物、昆虫類、果実類

秋 ブナ・ミズナラなどの堅果類、果実類

Q クマは普段何を食べていますか？

A 群馬県内で捕獲されたクマの胃と腸の内容物を調べた結果、年間を通して様々な食べ物を食べていることがわかりました。

春先は山菜や木の新芽、草などが多く、初夏には動物性のものやサルナシ等の果実類が増え、夏の終わりから秋にかけては堅果類を集中的に食べているようです。桑の実、プラム、カキ、リンゴ、トウモロコシ等は以前からみられましたが、近年では、コメやキャベツも多く検出されるようになりました。

Q クマの食性の調査をしてわかったことはありますか？

A 動物性のものに関しては、調査を始めた当初はアリやハチの卵や幼虫が多くみられましたが、最近では、ニホンジカ、イノシシ、ニホンカモシカ等も多くみられるようになりました。とくに胃や腸などの消化管を好むようです。

カメラ調査の結果からも、わなにかかった動物を食べる際に、まずは内臓から食べていることが明らかとなっているので、過去と比べて食性が変化してきたと推測されます。

クマはおなかいっぱい食べ貯めます。おなかいっぱいになった成獣のオスの胃の重さは5kg～7kgになることもあります。食べ物への執着も強く、食べ物があつた場所には繰り返し、繰り返しやってきて、食べ物がなくなっても、念のため本当になくなったことを確認しにくるような行動もとります。

Q クマの目撃情報が多数寄せられるようになりました。人里に降りてきているということでしょうか？

A クマは、本来、豊かな森林を好む動物です。食べ物、水とすみかが得られるところを求め、広い範囲を探索します。餌を求めて人里に降りてくるといよりも、人家周りや人里には魅力的な食べ物が多いので、クマにとっては食べ物を得られる重要な場になっていると考えられます。耕作放棄地や放任果樹、対策の行われていない農地や収穫残渣、コンポストなど、人里はクマを誘引する環境がたくさんあるということかと思います。

3 クマの1年の過ごし方

	〔人の活動〕	〔過去に起きた人身被害〕
3～4月 冬眠から目覚めて、活動を開始		4月～9月 山菜採りに遭遇し負傷
6～7月 オスはメスを探して盛んに動き回る 母グマから離れた若いクマは、広範囲に移動する傾向があるので、注意が必要	山菜採り	5月～11月 登山中に遭遇し負傷
7～8月 食べ物が少ない時期で、食べ物を求めて盛んに動き回る	登山 釣り キャンプ	5月～9月 渓流釣りに遭遇し負傷
9～11月 冬眠に備えて、よく食べるようになる 餌となる堅果類(ブナ、ミズナラ、コナラ等)が不作の年は、食べ物を求めて行動範囲が広がる	キノコ採り	7月～10月 キノコ採りに遭遇し負傷
11～12月 冬眠入り(気温の低下や食べ物が少なくなる冬を乗り切るため) メスは冬眠中に子供を産む 栄養状態がよければ出産率が増加 ※冬眠する時期が遅れることもあるため、冬期だからといって安心することは危険	狩猟	11月～12月 狩猟中に遭遇し負傷 他にも ・散歩中に遭遇し負傷 ・養蜂に誘引されたクマに遭遇し負傷 などが起きています

4 クマの生息状況

群馬県周辺の山地地域には、約2,000頭※2のツキノワグマが生息すると推定されています。ここ10年ほどでも、推定個体数は増加しています。

※2 群馬県鳥獣被害対策支援センター「群馬県ツキノワグマ適正管理計画」(第二種特定鳥獣管理計画・第三期計画)

クマの出没状況

「群馬県クマ出没マップ」

県内の目撃情報が地図上で見られます

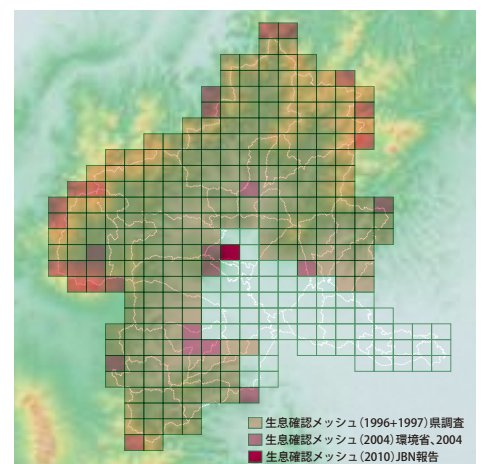


図 ツキノワグマの生息分布図

STEP 2

クマとのトラブルを防ぐための3か条

1 出会わない

2 寄せ付けない

3 落ち着いて行動する

クマは臆病なので、人と出会うと驚いて、襲ってくる場合があります。まずは出会わないことが重要です。

1 出会わない 出会わないためにできること

- 人の存在を知らせるため、クマ鈴やラジオなど音の出るものを身につける
- 複数人での行動を心がける
- クマの行動が活発になる早朝や夕方の薄暗い時間帯に外出する際は注意する
- 山菜採りなどに夢中にならずに、周囲の音に注意する
- 新しいふんや足跡を見つけた時は、すぐに引き返す など

クマ対策グッズ

山周辺やクマ出没情報があった場所に近づくときは、クマ対策グッズを携帯しましょう

クマ鈴

鈴の音で人の存在を知らせます



クマ撃退スプレー

刺激成分を発射するスプレーで、クマが近づいてきたときに使用します



リュック

クマが襲ってきたときに、背中を守ることができます



2 寄せ付けない クマを人里に寄せ付けないためにできること

クマを人里に寄せ付けないう、クマの食べ物となるようなものは除去しましょう。

1 生ごみ、農作物を放置しない

においの強いものに誘引されるため、誘引物を外に放置しないようにしましょう。

3 農作物、養蜂は電気柵で防ぐ

畑の農作物や養蜂はクマを引き寄せる要因となります。特に、はちみつやハチの巣はクマの好物です。電気柵を正しく設置し、クマを寄せ付けないう対策をとりましょう。設置後は、雑草がワイヤーに触れないように定期的に草刈りをする等、管理も重要です。

2 果物(柿など)は早めに収穫する

果実をつけたままにしておくと誘引の原因となります。果実のなる木は管理をしましょう。管理できない果樹は伐採するなど、クマを引き寄せない環境づくりが重要です。

4 クマの隠れ場所をつくらない

クマは山近くの雑木林を通して里に下りてくるため、森林の境界の下草刈りや、耕作放棄地の管理を行うなどして、人里にクマの隠れ場所をつくらないようにしましょう。



3 出会っても落ち着いて行動 なるべく被害にあわないためにできること

大きな声を出さずに、まずは落ち着いて、距離をとってください。

クマとの距離が遠い場合

クマを見ながらゆっくり離れる（後ずさり）

- クマは、逃げる獲物を追う習性があるため、背中を向けて逃げない



クマとの距離が近い場合

クマが向かってくることに備える

- クマ撃退スプレーを手に持ち、安全装置を外して構える
- 様子を見ながら、ゆっくり離れる（背中は見せない）
- 木など隠れられるものが近くにあれば隠れる（クマの動きは常に気にしておく）



クマが襲ってきたら

クマ撃退スプレーを使用する、防御姿勢をとる

- クマ撃退スプレーをクマの目、鼻、口をめがけて発射する
 - クマ撃退スプレーを持っていない場合は、うつ伏せになり、頭や首に腕を回し、守る
- クマは頭部を狙って攻撃してきます
 - リュックなどを背負っていれば背中を守ることができます



クマとの共存を目指して

クマは、繁殖力が低く、環境の変化や捕獲の影響を受けやすい反面、森林生態系の上位種であり、クマを保護することは、他の多くの動物を守ることにもつながるといわれています。

一方で、昨今、クマによる人の生活圏への出没とそれに伴う人身被害が頻発するようになりました。クマの出没が増えた原因として、クマの生息域が徐々に広がり、人の生活圏と重なってきたことがあげられます。クマは、食べ物への執着が強く、学習能力も高いため、人里に食べ物があるとわかると、頻繁に出没するようになります。群馬県でも、散歩中にクマに襲われ、けがを負う事故が発生しています。

人身被害が発生するなど人の命の危険が差し迫った場合や、人里に出没してしまったクマの人慣れ行動が確認できた場合などには、人の生活を守るため、速やかに駆除する必要があります。

しかし、クマとの共存を目指すには、駆除だけではなく、人の身近なところにクマがいることを理解することから始める必要があるのではないのでしょうか。

クマの食べ物となる生ごみや収穫されない柿や栗などの果実は、人の生活圏への誘引につながります。また、草木が茂るなどして里山が荒れてしまうと、クマにとっての人里への進入路となります。

管理できなくなった果樹の伐採や、里山整備の活動に参加するなど、クマを山から出さないよう我々、人も生活を少しずつ変えていく必要があるのかもしれません。